

事務事業名	子どもクラブ親睦球技大会運営事業		所属部局	教育委員会	単位番号	12514
			所属課室	生涯学習課	課長名	新津 岳
	☐ 実施計画事業		所属担当	青少年担当	担当者名	長谷部寿仁
基本政策	基本計画	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計 名称 款 項 目 細目 細々目	01 一般 1 0 4 0 3 0 3 0 2 8	
政策	24	青少年の健全育成	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金		
施策	38	健全育成支援体制の強化充実				
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)			法令根拠	県子どもクラブ指導者連絡協議会競技規則	
事務事業の概要	事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)		
	スポーツを通して、健全な体と精神を養うと共に、子どもクラブ員相互の親睦を深めることを目的とする。			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)		
				報償金	145	
				その他報償金	225	
				消耗品	81	
			食糧費	59		
					計 510	

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	県大会へ 男子ソフトボール、藤田チーム、女子ミニソフトボール、浅原チーム(県3位)、藤田チーム出場
22年度活動実績	南アルプス市子どもクラブ親睦球技大会の開催 山梨県子どもクラブ親睦球技大会への参加
23年度活動予定	
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	子どもクラブ員
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	スポーツを通して、健全な体と精神を養うと共に、子どもクラブ員相互の親睦を深める。
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	青少年の健全育成

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア	南アルプス市参加者数 人
イ	
ウ	
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア	子どもクラブ員数 チーム
イ	
ウ	
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア	大会参加チーム数 チーム
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称 単位
ア	参加チームの満足度 %
イ	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円	386	476	490	0	0	0		
	事業費計 (A)		千円	386	476	490	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3					
		延べ業務時間	時間	240	240	240					
		人件費計 (B)	千円	1,071	1,071	951	0	0	0	0	
		(A)+(B)	千円	1,457	1,547	1,441	0	0	0	0	
活動指標		アイ	人	7,422.0	7,356.0	7,300.0	0.0	0.0	0.0		
		ウ									
対象指標		アイ	チーム	37.0	33.0	40.0	0.0	0.0	0.0		
		ウ									
成果指標		アイ	チーム	37.0	33.0	40.0	0.0	0.0	0.0		
		ウ									
上位成果指標		アイ	%	60.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0		
		イ									

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	旧町村時代からそれぞれ球技大会を開催し、優勝チームが県大会に出場していた。16年度まではそれぞれの地区で予選会をし優勝チームが市の大会に出場していたが、18年度から広域的に親睦が図られるよう地区予選をなくし市大会に一本化した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	参加チームが減少している。各子どもクラブへの参加を求める。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	子どもクラブ指導員から子どもの減少によりチーム編成して参加することが難しいという。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	参加しやすいチーム編成の配慮 (低学年のチームでも参加できる)
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	子ども人口が少ないチームでも参加可能となるように、特別ルールの導入等を図る。

事務事業名	子どもクラブ親睦球技大会運営事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓]
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 現状は、球技に興味がある子どもたちはすでにスポ少や部活で活躍しており、子どもクラブ活動の事業としての存続問題が問われている。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 適切である ⇒ [理由 ↓] 同 上
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 現状は、球技に興味がある子どもたちはすでにスポ少や部活で活躍していて出場できず、興味のない子は参加してこない状況である。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 特別に活動している子ども以外、屋外でスポーツをする機会がなくなっているため。 ☐ 休止・廃止ができる ☐ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓]
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 必要最小限の経費で運営しているため。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 現在でも、担当以外で人員の確保をして運営している。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 広く市内全域からの出場が望まれる競技種目の検討が必要。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	市内75子どもクラブ中16～17チームの出場 (ワトホーW11、ワトハレーホーW16チームで大半が白根・若草地区) にとどまっている。不参加理由が「人が集まらない」が大半である。行政から何らかのテコ入れをしても、社会的な動向として事業活性化は難しいと想定される。一方、伝統的な地域行事として継続的に参加している団体にはこの事業の存在が大きな励みとなっている。しかし、総合的に判断すると事業の衰退 (参加チームの減少) には歯止めがかからないため、「いつ (何チームになったら) 事業を廃止するか」の検討を行う。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☒ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☒ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☒ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☐ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
① 廃止決定要因となる参加チーム数の根拠検討 ② 平成23年度の結果、今年中に役員を集めて対応を協議 → 合同チームでの参加を可能にするなどして参加チームの増加を図る。 → 別の参加型スポーツを新規に取り入れる。 ③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
① 継続的参加地域への説明と理解 ② ③		成果優先度評価結果	⑦																					
		コスト削減優先度評価結果	⑦																					